

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

座間支援学校

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月4日実施)	総合評価(3月17日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○カリキュラムマネジメントを進め、「わかる」「できる」「伝わる」力の育成を目指す。	①ICTの利活用を推進し、育てたい力を明確にした授業実践・授業改善に取り組む。	①ICT利活用のための研修及び1人1台端末を活用した授業実践を積み重ね、児童・生徒の実態に即したICT活用指導力の向上を図る。  ②単元配列表を整備し、学習内容を分かりやすく示す。	①文科省調査「授業にICTを活用して指導する能力」項目の「ややできる」以上が、7割を超えることができたか。  ②単元配列表が整備され、分かりやすく示すことができたか。	①ICT活用授業が「できる・ややできる」と答えた教員は66%で、目標の7割を超えることはできなかった。  ②単元配列表により、系統的・教科横断的な授業づくりが意識できた。	①昨年度の63.5%から微増はしている。活用は進んでいるが、自己評価に個人差がある。  ②定期的な指導内容の改善や教科間での調整を図っていく。	[保護者アンケート] ICT機器を活用した授業づくりを工夫しているか 肯定的70% 否定的10% 分からない20% [学運協] ICTを使いこなしている様子に感心した。事業所などにも情報共有したい。	ICT活用は校内研究と連動して着実に進展している。教員各々の活用能力向上をさらに図る。単元配列表による学習内容の見える化で計画的な授業実践が進んでいる。	研究研修班と情報班の連携を深め、ICT環境整備と実践研究を促進する。  単元配列表の共有・活用と改善を進め、オープンツール化を目指す。
2 児童・生徒 指導・支援	○児童・生徒一人ひとりの特性や教育的ニーズを的確に把握し、支援・指導を組織的に行う。	①関係者が専門性を発揮し、チームで多面的に児童・生徒の実態把握を行い、組織的に支援・指導を行う仕組みを整える。	①担任と専門職、教育相談担当で実施したアセスメント結果を、個別教育計画や日々の支援・指導に反映させる。	①客観的なアセスメントに基づき、実施する支援・指導の仕組みが整い、それにより、児童・生徒に変容が見られたか。	①校内ケース会で当該児童・生徒の見立てをアセスメント結果から把握し、ケース会の内容を充実させることができた。	①アセスメント結果の読み取りや評価の付け方等をさらに共有し、学年として実施できるよう働きかけていく。	[学運協]学習指導要領に即しながら、能力や環境について見立てをしたうえでかわっていくことが重要である。	アセスメント結果のフィードバックにより、実態把握と具体的な支援方法についてチームで検討することができた。	フィードバックを継続して行い、一人ひとりに焦点を当てた目標や支援方法の検討、子どもの変容に繋がった好事例の共有を積み重ねる。
3 進路指導 ・支援	○一人ひとりの社会的自立や生活の充実をめざし、主体的な進路選択や個に応じた進路実現を支援する。	①自立や生活の充実に向けた自己選択・自己決定の支援を系統的に行うとともに、本人保護者と進路情報を共有し、適切な進路決定に繋げる。	①児童・生徒に自己表出・自己選択・自己決定の経験を豊かに積ませる。また、ニーズに応じた進路情報を提供し、共有化を図る。	①自己表出・自己選択・自己決定のための機会を多く作れたか。また、必要とされる進路情報の提供がなされたか。	①進路説明会・進路学習会また進路見学会の機会を持つとともに、生徒に向けた先輩の話聞く機会を設け、今必要と思われる情報を提供した。	①教員間で連携し、系統的に進路支援をしていくために、校内向けの情報発信の機会をさらに設けられるとよい。	[保護者アンケート]進路や福祉制度について早い段階から情報共有がなされているか 肯定的91% 否定的7% 分からない2%	事前のアンケートや意向調査等を実施してあらかじめ情報を集め、進路面談等では生徒と保護者の希望や意向に応じた情報共有が図れた。	多様化する進路の選択肢の中から、生徒自身が適切に自己選択・自己決定できるよう引き続き生徒・保護者と丁寧な情報共有に努める。
4 地域等との 協働	○地域との連携及び地域資源を活用した教育活動を積み重ね、地域に開かれた学校づくりを推進する。  ○センター的機能を充実させるとともに交流及び共同学習を進め、インクルーシブ教育を推進する。	①小学校や高校等との交流及び共同学習を推進するとともに、地域資源の活用等により本校への理解推進を図る。  ②センター的機能の充実を図り、インクルーシブ教育推進について理解啓発を図る。	①入谷小、座間高、分教室設置校等との交流及び共同学習や職員交流を積み重ねる。また、地域資源を活用した学習活動を推進する。  ②学校全体としてセンター的機能を発揮する機会を増やすとともに、切れ目ない支援部会の活動等によりインクルーシブ教育の理解啓発を図る。	①関係する各学校や地域との連携が深化し、お互いのことをよく知り合うことができたか。  ②アンケート等の結果をふまえてセンター的機能の充実やインクルーシブ教育推進の理解啓発が図れたか。	①高等部作業班では、入谷小での清掃活動や、上溝中・西中との共同学習に取り組むことができた。  ②巡回相談で相手校のニーズを聞き取り、市教委と協力して支援器具の導入を行うなど、相手校内で取り組める支援の提供ができた。	①地域への発信、交流は推進できたが、地域資源活用の視点での授業づくりが必要である。  ②巡回相談等で対応した事例を、市のCo会議等で共有するなど、支援力が鍛えられていくような取り組みを行う。	[学運協]地域との交流は、関わった地域の人にとっても重要な時間である。子どもたちを見守ってだけでなく、学校によって地域が育まれていくためにも今後も取り組みを継続していただきたい。	地域や近隣小中高校との交流及び共同学習が多様化・深化し教育活動の充実を図ることができた。 [保護者アンケート]ではインクルーシブ教育の推進に取り組んでいるかが「分からない」が32%と高かったため、発信・情報提供の改善が必要。	取り組んでいる地域交流や学校間交流を単発のイベントではなく、その教育的意義を指導計画に位置付け、系統的・持続可能な取り組みにしていく。 インクルーシブ教育推進に向けた取り組みについて見える化を検討する。
5 学校管理 学校運営	○安心で快適な教育環境整備を進め、組織的・計画的な学校安全管理を推進する。  ○組織的な学校運営と校務の効率化を図り、児童・生徒と向き合うための時間を確保するとともに、不祥事・事故防止に努める。	①緊急事態に対応する訓練を充実させるとともに、児童・生徒の防災意識を高める取組を行う。  ②業務のスリム化をさらに推進し、働きやすい職場環境をつくることとともに、事故の未然防止、不祥事ゼロを達成する。	①各種の緊急事態を想定した訓練を積み重ねるとともに、児童・生徒による主体的な防災活動や防災教育を実施する。  ②連絡調整会議で全校視点の業務改善を学期単位で検討、推進する。Teamsの活用によるチーム内の情報共有を図る。業務アシスタントやボランティア等の活用を推進し教員の負担軽減を図る。ゆとりを生み出し事故・不祥事防止に繋げる。	①児童・生徒の実態に応じた主体的な防災活動に取り組む、防災意識を向上させることができたか。  ②組織的な業務のスリム化を積み重ねることができたか。働きやすい職場と感じている教員の割合が8割を超えることができたか。事故・不祥事ゼロを達成することができたか。	①生徒会を中心に防災について話し合い、防災クイズを考え校内に掲示するなど防災意識を高めることができた。  ①新年度に向け年間予定や教育課程の見直しを行い、児童・生徒と向き合うための時間をさらに確保するよう改善を図った。	①学校全体の視点で生徒会を中心としてできる取り組みを生徒と一緒に考え取り組んでいく。  ②教員アンケートでは、働きやすい職場と感じる割合が57%に留まっており、さらなる改善が必要である。	[保護者アンケート]防災対策等は整備されているか 肯定的83% 否定的4% 分からない13% [学運協]市には医療的ケアのコーディネーターがいる。福祉避難所として医療的ケアが必要な方を受け入れることを想定して、防災部会のメンバーに福祉の関係者を加えることも考えられる。	体験的活動による防災学習や自主的な防災活動が進展した。あらゆる事態を想定した有事への備えをさらに進める。 [教職員アンケート]によれば、組織的な業務のスリム化を積み重ねることができたかは、肯定的意見が37%と低いレベルであり、業務改善は依然として大きな課題である。	各種訓練の反省をもとに災害想定を変えてより具体的な状況を設定した訓練内容にしていく。  教育課程や年間予定の見直しについて、その効果を検証する。多様な勤務形態の職員が増加する中で、効率的な会議や打ち合わせ方法、情報共有の在り方をさらに工夫する。